

インフルエンザ HA ワクチン及び A 型インフルエンザ HA ワクチン (H1N1 株) 改訂案

現行	改訂案
<p>【用法及び用量に関連する接種上の注意】</p> <p>1.接種間隔</p> <p>2 回接種を行う場合の接種間隔は、免疫効果を考慮すると4 週間おくことが望ましい。</p> <p>2.他のワクチン製剤との接種間隔</p> <p>生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27 日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。</p>	<p>【用法及び用量に関連する接種上の注意】</p> <p>1.接種間隔</p> <p>2 回接種を行う場合の接種間隔は、免疫効果を考慮すると4 週間おくことが望ましい。</p> <p>2.他のワクチン製剤との接種間隔</p> <p>生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27 日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。<u>ただし、医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができる (なお、本剤を他のワクチンと混合して接種してはならない)。</u></p>
<p>【接種上の注意】</p> <p>6. 妊婦、産婦、授乳婦等への接種</p> <p>妊娠中の接種に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には接種しないことを原則とし、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。</p>	<p>【接種上の注意】</p> <p>6. 妊婦、産婦、授乳婦等への接種</p> <p>妊娠中の接種に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には接種しないことを原則とし、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。</p>

参考(新旧対照表)

インフルエンザ HA ワクチン及び A 型インフルエンザ HA ワクチン (H1N1 株) の新旧対照表

現行	改訂後
<p>【用法及び用量に関連する接種上の注意】</p> <p>1.接種間隔</p> <p style="padding-left: 20px;">2 回接種を行う場合の接種間隔は、免疫効果を考慮すると4 週間おくことが望ましい。</p> <p>2.他のワクチン製剤との接種間隔</p> <p style="padding-left: 20px;">生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27 日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。</p>	<p>【用法及び用量に関連する接種上の注意】</p> <p>1.接種間隔</p> <p style="padding-left: 20px;">2 回接種を行う場合の接種間隔は、免疫効果を考慮すると4 週間おくことが望ましい。</p> <p>2.他のワクチン製剤との接種間隔</p> <p style="padding-left: 20px;">生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27 日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。<u>ただし、医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができる(なお、本剤を他のワクチンと混合して接種してはならない)。</u></p>
<p>【接種上の注意】</p> <p>6. 妊婦、産婦、授乳婦等への接種</p> <p style="padding-left: 20px;">妊娠中の接種に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には接種しないことを原則とし、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。</p>	<p>【接種上の注意】</p> <p>6. 妊婦、産婦、授乳婦等への接種</p> <p style="padding-left: 20px;">妊娠中の接種に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には接種しないことを原則とし、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。</p> <p style="padding-left: 40px;"><u>なお、小規模ながら、接種により先天異常の発生率は自然発生率より高くないとする報告がある。*</u></p> <p style="padding-left: 40px;">※ 出典：Birth Defects and Drugs in Pregnancy, 1977</p>